

Human ヒューマン

2023.7 Vol.21

「興味」のドアを 開ける場所



CONTENTS

人文学部開設 30 周年記念特集

- 02 特別対談 人文学部の昨日・今日・明日を語る
- 04 卒業生メッセージ 人文学部生時代を振り返る
- 06 記念シンポジウム開催
- 07 ゼミ紹介
英米文化学科 佐藤 貴史 3年ゼミ (1部)
新任教員紹介
日本文化学科 講師 清沢 紫織
- 08 2022 年度 優秀卒業研究賞
- 09 2022 年度 卒業研究題目一覧 (一部)
- 10 人文学部 TOPICS
第30回「人文学の挑戦」開催／人文学会第10回大会開催／
田中綾ゼミが文芸誌刊行／丸島ゼミ共催の美術鑑賞WS開催／
研究成果を社会に／退職記念最終講義
- 裏表紙 就職・進学情報
留学状況／資格取得状況





人文学部開設 30 周年記念——特別対談

人文学部の昨日・今日・明日を語る

人文学部は日本文化と英米文化の両方を総合的に学べる学部として 1993 年 4 月に開設され、今年 30 周年の節目を迎えました。学部誕生当時から長きにわたり教育・研究活動に注力された中川かず子先生と米坂スザンヌ先生に、開設時のエピソードや学生気質の変遷、これからの語学教育のあり方についてお聞きしました。

開設のころを振り返って

丸島 人文学部の特長のひとつに語学教育があります。中川先生は日本語教育と日本語教員養成、米坂先生は音声学を軸にした英語学の分野で、その現場を担われました。開設当時のことをあらためて教えていただけますか。

中川 人文学部開設は 1993 年ですが、私は前年の 92 年に赴任しました。当時私は東京で、外国人が学ぶ日本語学校の教員をしていました。札幌の実家にいる母のケアのために、たびたび帰礼しているような状況だったのです。そんなとき、学部開設に関わった山根對助先生が実家にいらして、新しい理念とシステムを持った学部を立ち上げるので協力してほしいと請われました。北海道ではじめて、国際的な視座を基盤に据えながら、文学や歴史などにとどまらない、幅広い文化を総合的に学べる場所。それが人文学部でした。

米坂 私も 92 年に赴任しました。それまでは札幌大学女子短期大学部で英語を教えていました。私を招いてくださったのは山中燐子先生でした。山中先生は大学の外でも、札幌でいろいろな国際交流活動をされていました。当時の札幌ではネイティブスピーカーの英語教員が少なかったこともあり、すぐ来てほしいと誘っていただきました。私たちは、EFL（英語を母国語としない人のための英語教育）の考え方を軸に据えて、カリキュラムをさまざまに工夫していきました。開設後も、ネイティブスピーカーの英語教員が特別枠の専任講師として増えていきました。

中川 日本文化学科を含めて、英語をネイティブとする教員がたくさんいる、ということが新学部の特色でしたからね。大学がマンションを

意して、新しい職場での親睦のために、皆さんよくパーティをしていましたね。

米坂 日本の暮らしに慣れていない方もいたので、私はよく生活のサポートをしていました。

中川 当時の本学の広報誌（「北海道から」1993.1）で山中燐子先生は、人文学部の卒業後の針路として、コミュニケーションの手段としての英語を身につけ、国際的な場でも活躍できる人材、とおっしゃっています。時代はまさに、グローバル人材という言葉が使われ始めたころでした。英語圏の文化と日本文化、両者を結ぶスキルを学べる環境を、関係者が一丸となって作り上げていきました。

30 年の移り変わりを振り返ると

丸島 開設時の学生はどんな様子だったのでしょうか？

米坂 当時の人文学部の定員は、英米文化学科と日本文化学科、それぞれ 60 人で受験者もたいへん多かった。すごい倍率でした。

中川 時代の先端の新しいことが学べると、受験生の期待も大きかったのだと思います。企業や自治体など、各界からの期待も高かった。いまふれた広報誌（「北海道から」1993.1）には、国際化の時代を本格的に迎えた北海道の経済団体や企業、高等学校長協会などから、熱い期待を寄せるメッセージが掲載されています。

米坂 1993 年は、まだ地下鉄東豊線「学園前」駅ができていない時代（同駅開業は 94 年秋）。学生の多くは国道 36 号を走るバスで通っていましたし、キャンパスの建物や雰囲気もいまとはずいぶん違っていました。



司会／丸島 歩
(人文学部日本文化学科 准教授)



中川かず子 先生

1951 年生まれ。北海道札幌市出身。2020 年に人文学部を定年退職。現在は、学校法人北斗文化学園日本語教育研究所長、同学園日本語教育課程主任教員として、日本語教育のほか、地域日本語教育に関わる調査、研究を行なっている。



米坂スザンヌ 先生

1954 年生まれ。ロサンゼルス出身。2023 年に人文学部を定年退職。現在は、北海学園大学名誉教授。

丸島 スタートしてからもさまざまな取り組みが進められましたが、特に印象深いことなどはありますか？

中川 私にとってはやはり、日本語教員の養成課程をスタートさせたことです（1998年）。道内の大学では最初のことでした。まず、他学部の先生たちに協力を求めながら、文部省（現・文科省）のガイドラインに従って構想を練り、現行のものに必修科目を加えたカリキュラムを作りました。それを学部長にプレゼンして、教授会での合意にまで進めることができました。

丸島 当時の北海道では、外国人に対する日本語教育はどのような状況にあったのでしょうか？

中川 北海道大学や北海道教育大学、北星学園大学、札幌大学なども留学生を受け入れていましたが、北大以外は交換留学生が中心でした。留学生は、来札するとすぐ、講義やゼミなどで日本人と机を並べて学ばなければならず、これにはとてもハードな勉強が求められます。私たちは、留学生に対する専任の日本語教員を増やしていこうと、大学の枠を越えながら、複数の大学間で連携を進めました。そして94年に立ち上げたのが、いまま活動を続ける「北海道日本語教育ネットワーク」です。

米坂 この30年で、国内外の情勢にはとても大きな変化がありました。今日のテーマに絞れば、当初は英米文化というくりでしたが、北海道が進めていた北方圏センター（現・北海道国際交流・協力総合センター）の活動もあって、例えばカナダの存在も大きくなっていきました。さらには、オーストラリアやニュージーランド、あるいは香港や台湾など、このほかの国々の人々との関わりも広がっていきました。

中川 それまでの留学生は、あくまで一般の枠組みで入学した学生でした。留学生を受け入れる体制をしっかりと整えたのは、人文学部が最初だったのです（現在は全学にその体制があります）。留学生たちは、日本語にとても熱心に取り組んでくれました。日本語能力試験でN1という最高レベルの実力を持つ学生も少なくなかったのです。

丸島 米坂先生たちはそんな中で、グローバルな英語を実践的に学ぶために、コンピュータ上で学生がペアで発音をチェックし合う、新しいメソッド（Peer Feedback）を開発されましたね。

米坂 日本人が世界で英語を使っていく時代で、学生も教員も多様化していました。そんな中でより効果的に英語の発音を学ぶために、学習者は教員だけに頼るのではなく、相互に発音を評価し合う協働作業が有効だと考えたのでした。この方法は、今日まで改良が重ねられています。

丸島 中川先生は、この30年のあいだの変化を、どのように受け止めてきましたか？

中川 私たちは、外国人に日本語を正しく教えられる人材を育てることに取り組んできました。大学の外でも、外国人に日本語を教えるボランティアグループを作りました。「たんぼぼ」という名前ですが、世代交代を経ていまでも札幌を中心に活動しています。当初は留学生が軸でしたが、やがて農業や工業、福祉の現場などへ外国人技能実習生がたくさん入る時代になり、より広い人々に日本語を教える必要が増しました。日本語教員のニーズは、近年ますます高まっているのです。日本語教員コースで学んでも、職業として日本語の教員になるのは、全体の1割くらい



でしょうか。それでも、例えば高校の教員になり、学校で留学生を迎えることがあるでしょう。あるいは自治体や企業に就職して、国際交流の現場に立ち会うこともあるでしょう。そのときに日本語を正しく教えられるスキルはとても重要です。

米坂 逆に日本から海外を見れば、英米文化学科の学生たちには、当初から海外への志向が強くありましたね。私たちは、語学研修や留学などで、ひとりでも多くの学生に海外での経験を積んでほしいとサポートしてきました。そうした経験の上に、海外の大学院に進学した人や、研究者になった人、海外に暮らしてビジネスで活躍している人たちもいます。国際結婚した人もいますね。

これからの語学教育の進路は？

丸島 これまでのお話でも見えてくるように、語学教育は社会の変化を強く受ける分野だと思います。とりわけコロナ禍によって私たちは、人が対面して直接教えることの意味までを再考することになりました。これからの語学教育はどうあるべきでしょうか。

米坂 コロナ禍で対面授業ができなくなったときはたいへんでした。しかし一方で、私たちはITを活用した新しい学習法を身につけることができ、学びのレンジが広がった意義は大きいと思います。一方でIT習熟度の個人差は、広がっていると感じます。分野を問わずこれからの学生には誰でも、ITを自在に使いこなすスキルが求められます。そして私は、英語とITに加えて、もうひとつ外国語をマスターしましょう、と言いたいです。

中川 本学の現役教授でいた時代、私はITに関しては教務の皆さんに頼りっぱなしでした。でもコロナ禍のタイミングで定年退職してからは、授業や課題のチェック、実習などもオンラインでやることが増えて、全部自分でZoomなどを使いこなさなければなりません。はじめは苦労しましたが、なんとかできるようになると、自信ができました。いまは毎日のように、海外も含めいろいろな方を相手に、オンラインでのやり取りを行っています。

米坂 オンラインで使う教材も進歩していますね。

中川 そうですね。欧米では、たくさんの言語の学習を共通のフレームで進めるCEFR（セファール）という仕組みが使われていますが、近年、これを日本語教育にも導入する動きがあります。古くから使われているテキストだけでは、国際基準に適合できないのです。そうした動向も意識しなければなりません。

米坂 ChatGPTに代表される生成AIも、単にテストや課題を要領よくこなしていくレベルで使われるとしたら不幸なことだと思います。

中川 この先どんなに技術が進んでも、AIを使いこなすのは生身の人間です。AIが100%正しいということはないでしょう。語学教育にITやAIという道具をいかに効率よく活用していくか。私たちはその方向で、議論や挑戦を続けなければならないと思います。

丸島 本日はありがとうございました。



（2023年6月12日、北海学園大学にて実施）

OB・OGからのメッセージ

O B ・ O G | M e s s a g e

学部開設 30 周年を記念して幅広い年代の卒業生から、在学時のエピソードや現在の仕事についてのメッセージを寄せていただきました。

志村 昭暢 さん

北海道教育大学教授

英米文化学科 1993 年入学

学生時代：1 年生の頃、Lomas 先生と一緒に
(中央が本人)



人文学部開設 30 周年、心よりお祝い申し上げます。私は英米文化学科に 1 期生として入学・卒業し、高等学校勤務を経て、現在は北海道教育大学に勤務し、教員養成と教育・研究に日々励んでいます。私が入学した頃は、7 名の外国人教師が英語授業を担当し、1 クラス 15 名前後の少人数で授業が行われていました。授業はすべて英語で行われ、受験英語しか知らなかった私はついていくのが大変でしたが、コミュニケーションを重視した楽しい授業に引き込まれ、いつの間にか英語が楽しくなりました。

入学当初は英語圏の文化に興味があったのですが、素晴らしい英語の授業に出会ったことから、言語について興味を持つようになり、いつの間にか英語教師を目指していました。今は英語の教師を育成する立場となりましたが、あの頃受けた授業を思い出しながら、「Smith 先生ならどんな指導するかな?」、「Lomas 先生ならこんな教材作るよな〜」と思いながら学生を指導しています。



現在：英語教育ゼミの学生たち

馬場 康広 さん

株式会社アイワード
執行役員
北海道第二営業部 部長

日本文学学科 1996 年入学

学生時代：2 年生の夏休みにアルバイト先、札幌島・旅館うすのき前で
(右から 3 人目が本人)



学部開設 30 周年、誠にありがとうございます。札幌の地で日本文化を学べる魅力に惹かれ、4 期生として入学しました。当時は各学科の定員が 60 人 1 クラスずつで、男女比は半々くらいでした。社会人と留学生もいる多様な価値観の中で、自分でセレクトした興味のある講義から大いに刺激を受け思考力や視野が広がりました。語学、文学、歴史、芸術ほか様々な学びに加え、サークル活動やアルバイトを通して自分の基礎を構築した重要な 4 年間となりました。人文学部は自分次第で何にでも挑戦できる環境が整っています。

卒業後は札幌本社の印刷会社アイワードに入社し、気が付けば営業一筋で 24 年目となります。母校の営業も担当し、在学時にお世話になった先生方が定年退職されていくのは寂しいですが、様々な印刷物を教職員の皆さまと一緒に作成し学部の変遷を身近に感じております。また、大学同窓会の幹事をしており、多くの諸先輩方、後輩と接することができ、同窓の絆を感じております。北海道に留まらず日本、世界で活躍できる人材育成のため、卒業生の一人として母校に協力できればと考えています。



現在：書籍の編集をはじめ、各種印刷物作成の日々

土井 緋佳留 さん

北海学園大学
キャリア支援センター主任/
国家資格キャリアコンサルタント

英米文化学科 2006 年入学

学生時代は竹内潔先生のゼミに所属していました。ゼミの仲間とは、お互いの研究についてアドバイスし合える関係でした。卒業して 10 年以上経った今でもお世話になった先生や友人との交流が続いています。4 年間の出会いの影響は計り知れません。私は現在、北海学園大学のキャリア支援センターに勤務し、学生の就職活動をお手伝いしています。人文学部の学生とお話していると、物事を深く考える力が備わっている方が多いと感じます。また、研究テーマを何うと、なぜそのテーマを選択したのかという理由にその人らしさが現れていて非常に興味深いです。このような考え抜く力や他の人と異なる価値観を大切にすることは、私が在学している時から変わらない人文学部の学生の特徴のように感じます。これからも人文学部での学びを活かして社会で活躍する人材の輩出をサポートしていきたいです。



現在：就職支援セミナーで学生たちに前に説明

工藤 恵里奈 さん

フリーアナウンサー
(NHK 旭川放送局キャスター)

日本文学学科 2007 年入学



学生時代：教職課程で授業の練習

大学時代は、毎日朝から晩まで、予定を詰め込んでいました。アルバイトは常に 3 つほど掛け持ちし、夜は友人と道内各地をドライブ、長期休みには東京で働く先輩宅に居候しながら、様々なイベントごとや講座に参加しました。

真面目に勉強をする、模範的な学生ではありませんでした。高校まで放送部で、朝昼晩とアナウンス練習に費やしていたので、大学ではそれ以外のことに目を向けようと思っていました。結果、年齢も性別も様々な友人ができました。特に他大学の同年代の女性に刺激を受けました。アナウンス講座を受けているが、本当は教師になりたいくて勉強しているとか、医学部への転学を考えて予備校に通っているとか、目標に向かい努力を続けている方が多かったです。では自分はどうだろうと、将来を考えるきっかけにもなりました。

学内・学外問わず、人と話しをすることをおすすめします。そしてぜひ、やりたいことを見つけ、具体的に行動してみてください。



現在：NHK 旭川放送局のスタジオで

清水 健太 さん

北洋銀行旭川中央支店
融資課調査役

英米文化学科 2010年入学



学生時代：森鷗外「もーりす」と

ゼミの友人に誘われてインド映画を観に行ったことが大学時代の一番の思い出です。「きっと、うまくいく」という作品で、映画自体も素晴らしかったのですが、それ以上に「インド映画を観る」という経験をしたことが思い出です。その友人は少し風変わり（今でも大切な友人です）な奴でしたが、もしそれを理由に友人になっていなかったら、「インド映画なんて面白くないよ」と誘いを断っていたら、私は一生「インド映画を観る」という経験をしなかったかもしれません。

さて、大学生にはたくさんの時間と、たくさんの人と出会う機会があります。是非、自分と違うタイプの人とも積極的に関わってみてください。そうすることで自分の視野を広げ、新しい価値観に出会い、人生を豊かにすることに繋がります。「同じ学部だけと話したことないあいつ」や、「バイト先のちょっと恐い店長」とも勇気を出して話してみてください。思わぬ収穫があるかも知れませんよ。



現在：職場の前で

金田一 志帆 さん

「せこんど」代表/
専門学校等講師

日本文化学科 2011年入学



学生時代：友人たちと（前列右が本人）

「ヒューマン」をご覧の皆様、こんにちは。私は大学を卒業してから、私立高校で国語教師をしていました。その後大学や専門学校・オンラインで教鞭をとり、外国人への日本語教育や日本人への文章・言語指導をしています。

私が今、自信を持って働けているのは充実した大学生活があったからです。とはいえ、アルバイト先では理不尽に怒られたこともあったし、勉強は難しくなるし、いつも金欠だったし。人間関係も、云々。悩みは尽きませんでした。

でも、大学では一緒に悩んでくれる友人や、敬慕する教授方に会えます。自分にできること・興味のあることに飛びつけば自然と経験・糧となるのが大学です。私の教育活動も、大学時代、ボランティアに参加した経験が生きています。

やりたいこと、一緒にいてくれる学友を見つけて、がむしゃらに、今しかできない経験を大切にしてくださいね。



現在：日本語クラスでベトナム人学生たちと（手前が本人）

高松 瑞樹 さん

妄想アーキテツ株式会社
代表取締役

英米文化学科 2014年入学



学生時代：学生向けの弁論講座

就職しなくても好きなことで食べていける“武器”を卒業までに1つ手に入れたい（≒フリーランスや起業家のような選択肢を持ちたい）という気持ちが強かった私にとって、「朝起きてから夜まで自分の好きなことに没頭できる」という2部の環境は最高でした。大学の4年間、大好きな弁論（スピーチやプレゼンの仲間だと思ってください）を社会に広める活動をしていたのですが、日中の時間を自由に調整できたので、普通の学生よりも多くのチャンスをつかむことができました。

現在は「言葉」ではなく「絵」で人の妄想やビジョンをカタチにする会社を経営しています。今も日中は好きな仕事をして、夜は絵の勉強をしているので、2部学生時代と変わらず刺激的でワクワクする毎日です。やりたいことや将来の夢が特になという方も、まずは4年間好きなことだけに没頭できる環境を選んでみませんか？



現在：企業のビジョンの可視化

山城 京 さん

（ヤマシロ・ケイ：ペンネーム）
作家／シナリオライター/
Atelier FUSO 代表

日本文化学科 2015年入学



学生時代：友人たちと（右から2人目が本人）

思えば、私の大学生活は世の学生達のご多分に漏れず、酒と煙草、遊び、小説に塗れていたように思います。唯一、いわゆるモトリアムとは違う点を挙げるとするならば、やはり「小説」でしょうか。子供の時分より本を読むのを好んでいた私が書き手に回るのは、ある種当然ともいえる結果であり、しかしそこには常に「才能」という大きな壁が立ちちはだかっていました。同年代以下ですでにデビューしている方々は山程いて、そんな「才能」のある人達に追いつくには、ひたすらに「努力」するしかない、それこそ大学をサボってまで小説を書いていた記憶があります。

大学生活は、夢を見つける、叶えるための努力をする期間としてピッタリです。同時に、困った事があった時に頼れる大人の存在というのは、社会に出てしまうと得難い存在です。大学にはゼミの担当教員を始めとして様々な「大人」がいます。皆さんには、「大人」に頼る事を覚えていただき、自らが進む「道」を大学生活で見つけていただきたい。



現在：作業中

新人文主義のフロンティア

—「耕すこと」と「食べること」から考える人文学の可能性—



【日時】

2023年

9月30日(土)

13:20~16:45 【12:50 開場】

【会場】

北海学園大学 豊平キャンパス

8号館4階 B41教室

札幌市豊平区旭町4丁目1番40号

地下鉄東豊線「学園前」駅下車3番出口

予約不要
入場無料

北海学園大学人文学部は、北の大地における新しい人文学の創成をめざして、すなわち、北海道というフロンティアで(新人文主義)を教育と研究において実践するために、1993年に開設されました。(新人文主義)とは、ヨーロッパに由来する(人文主義)の優れた遺産を受け継ぎつつも、そこに含まれる西洋中心主義や人間中心主義という問題を見据え、人間が人間であることの意味を考えようとするものです。

学部開設 30 周年を迎えたいま、人間が人間であることの意味を考える(新人文主義)にどのような課題があり、どのような可能性があるのかを、改めて検討したいと思います。そこで、20 世紀の農と食についての歴史研究を中心に、人間らしさを解きほぐす、柔らかくも力強い研究成果を次々と発表されている藤原辰史さんを講師に迎え、文化的な営みの原型と見なされてきた「耕すこと」と、人間が生きるために欠くことのできない「食べること」について考えることを通して、人間が人間であるために人文学は何かができるのかを、会場のみなさんとともに議論します。

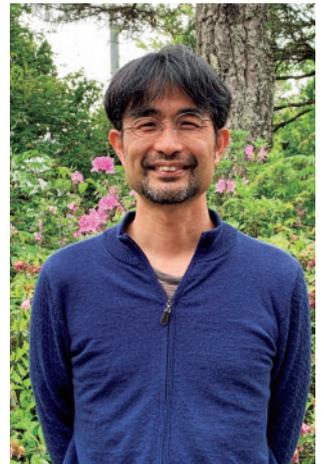
基調講演 13:30~14:30

食と農の人文学

—人間を深く考えるための
人間中心主義批判—

藤原 辰史 氏

京都大学人文科学研究所・准教授



プロフィール

1976年旭川市生まれ、鳥根県横田町(現奥出雲町)出身。京都大学人文科学研究所助手、東京大学農学生命科学研究科講師を経て、現職。専門は農業史と環境史。

著書に、『ナチス・ドイツの有機農業——「自然との共生」が生んだ「民族の絶滅」』(柏書房、2005年、第1回日本ドイツ学会奨励賞)、『ナチスのキッチン——「食べること」の環境史』(水声社→決定版=共和国、2012年→2016年、第1回河合隼雄学芸賞)、『給食の歴史』(岩波新書、2018年、第10回辻静雄食文化賞)、『分解の哲学——腐敗と発酵をめぐる思考』(青土社、2019年、第41回サントリー学芸賞)、『縁食論——孤食と共食のあいだ』(ミシマ社、2019年)、『農の原理の史的探究——「農学栄えて農業亡ぶ」再考』(創元社、2020年)、『植物考』(生きのびるブックス、2022年)など多数。2019年には第15回日本学術振興会賞を受賞。

今回の北海学園大学人文学部開設 30 周年記念シンポジウムでは、『分解の哲学』で展開された、私たちの生を取り囲む分解者たちについての思索をもとに、食の工業化が人間の生に問いかける問題までも視野に入れたお話をいただきます。

14:30~15:00

アフリカの農から考える人文学

小松 かおり

北海学園大学人文学部英米文化学科・教授



現代のグローバル化した農業では、自然を極限まで標準化してコントロールすることが当たり前です。しかし、家族と地元のために営む農では、作物は多様であることが価値であり、畑は周囲の自然に対して開放されています。アフリカ熱帯雨林の畑地や作物との向き合い方を通して、農における人間性について考えます。

15:00~15:30

食の日本近代史

—「自分」を「主語」とした人文学の試み—

郡司 淳

北海学園大学人文学部日本文化学科・教授



食をめぐる人と人の関係を都市と軍隊を場として素描します。その上で、絶滅収容所における人間性回復の過程や、沖繩戦で自分の食糧を子どもに分け与えたアイヌ兵、兵が学童の弁当を奪った「形而上的な罪」(K.ヤスバース)を負って戦後を生きた下士官の営みなどを検証することで、人が人として生きるとは何かを問いたいと思います。

● 15:30~15:45 休憩

● 15:45~16:45 質疑応答

〈お問い合わせ先〉

北海学園大学人文学部

Tel. 011-841-1161 (代表) e-mail jinbun@hgu.jp

月~金/9:00~16:00 (12:40~13:40を除く) 土/9:00~12:40

ゼミ紹介

Seminar No.35

英米文化学科

佐藤 貴史

3年ゼミ(1部)

【キリスト教文化論、思想史】



わたしのゼミのテーマは、キリスト教を中心にしたヨーロッパ・アメリカの思想文化です。今年度は英語テキストを用いて、古代ローマ帝国から近現代のヨーロッパ・アメリカまでのキリスト教文化の歴史を追いかけています。ゼミ生に訳してもらいながら、英文法やテキストの内容を確認していく、いわゆる伝統的な英文講読を行っています。

また人文学部では卒業研究が必修ですので、英文講読と同時に、日本語テキストを使って、卒業研究(卒業論文)の書き方についても学んでいます。今年度はフランツ・カフカというユダヤ人思想家の小説『変身』の研究論文を読んでいます。ある朝起きたら、よくわからない虫に「変身」していたという奇想天外な話です。みなさんは、朝、目を覚ましたときに虫になっていたことはありますか？ わたしのゼミ生はないと言っていました。こんな想像から普段の日常がまったく違うように見えてくるのが、思想のおもしろいところです。

キリスト教と聞けば、遠い世界の話に聞こえるでしょうか。神、苦難、愛、救済という宗教的言葉使いはわたしたちの日常世界とは無関係と思うかもしれませんが、でも、よく考えてみ



ると、キリスト教も人間が生み出した一つの社会現象です(北海学園大学も人間が作り出した一つの社会現象のはず!)。テキストを丁寧に読んでみると、古代のキリスト教徒もまた「人間関係や共同体の運営など、現代人と似たようなことで悩んでいたのだなあ」と思うことがあります。

ゼミ生の卒業研究は、キリスト教文化に限定されていません。各学生の関心に応じて、思想文化(宗教、哲学、生命倫理やジェンダー平等などの現代的問題)を広く扱っています。ゼミでは、批判的に読む・論理的に書く・わかるように伝えるためのスキルを意識しながら、卒業研究を作成しています。

人文学は一生付き合える学問です。わたしとしては、テキストと向き合いながら、各人その意味を学んでほしいと思っています。

新任教員紹介

日本文化学科 講師

清沢 紫織

KIYOSAWA Shiori

担当科目:ロシア語基礎Ⅰ～Ⅳ、ロシア語文化Ⅰ、ロシア語文化演習Ⅰ、ロシア語言語文化演習Ⅰ、世界の言語と文化、人文学基礎演習、人文学演習B



今年4月に日本文化学科に着任いたしました。私の専門は社会言語学とスラヴ語学で、特にロシア語が歴史的に支配的な言語として大きな影響力をもってきた東スラヴ地域(ベラルーシ・ウクライナ・ロシア)における言語の標準語化や言語復興をめぐる問題を研究しています。最近では、ロシア語・ウクライナ語・ベラルーシ語という東スラヴ語3言語それぞれの標準語の書記体系(文字体系・正書法)の形成がいかなる言語イデオロギーに支えられて進展してきたのかに関心をもっています。

講義は外国語のロシア語関連の授業を主に担当します。大学まで英語以外の外国語を学ぶ機会が限られている学生の皆さんの多くにとって、キリル文字による表記体系や語形変化に富む文法体系をもつロシア語の学習は、外国語という存在そのもの、さらに多くの方が母語とする日本語を客観的に見つめ直し相対化する貴重な体験になると考えています。こうした「ことば観」の深化は、言語学習のみならず人文学の理解を一層深める基礎となる多面的なもの見方に繋がることでしょう。

その意味でロシア語を専門としなくともロシア語やロシア文化を学ぶことの意義は非常に大きいと思われます。また、私自身はロシア語学習をきっかけにベラルーシという国に足を踏み入れ他のスラヴ語世界や旧ソ連の国々へと視野を広げてきました。この経験を活かし、東欧からユーラシアへと広がるロシア語圏の多様な文化や社会言語学的状況に関するトピックを授業では積極的に取り上げ、皆さんとロシア語の使われる社会の多様な在り方にも注目しながら一緒に学んでいきたいと考えています。どうぞよろしくお願いたします。



本学が今年度受け入れたロシアからの留学生と

2022年度

優秀卒業研究賞

人文学部では、言語文化・思想文化・歴史文化・環境文化の4つの研究分野に英語論文を加えた5領域で教員が優秀な卒業研究を選出し、表彰しています。2022年度は最優秀賞1本、特別優秀賞2本、優秀賞2本を選出し、その表彰式を2023年3月10日（金）に開催しました。受賞者の皆さんの素晴らしい研究成果を讃えます。

【講評】人文学部長 小松 かおり

2022年度の優秀卒業研究賞は、力作揃いでした。そのため、特別に、「特別優秀賞」を2本選出しました。今回の優秀研究には、「表現したいこと」、言い換えれば、自分のテーマがはっきりしている論文が多いと感じました。また、いくつかの視点や方法論を組み合わせた独創的な研究が複数見られました。北海学園大学の人文学部では、言語・文学・思想・歴史・環境という5つの分野にまたがる幅広い学びを提供しており、学生ひとりひとりが「自分」を中心として、学びを組み立ててほしいと考えています。そのカリキュラムを存分に生かした卒業研究が多かったことはとても嬉しく思います。

今年度の卒業生は、大学時代に新型コロナウイルスの流行やロシアのウクライナ侵攻を経験しました。人文学部では、「ことば」を武器として、答えのない、しかし重要な問いを見つけ、自分の頭で考え、考えていることを正確に表現し、人のことばをしっかりと受けとめ、対話できる人を育てたいと考えています。こんな時代だからこそ、卒業するみなさんには、これからも人文学部で身につけた生きるために考える力を生かして、答えのない問いに向き合いながら生きていくことを願っています。



最優秀賞の武田佑希子さん
(2部日本文化学科)



左から木村実結さん、中嶋奏子さん、武田佑希子さん、
松久楓さん、鷺見知也さん



【思想文化】**武田 佑希子**さん 日本文化学科 鈴木英之ゼミ

現代における揖屋地区住民の「黄泉比良坂」観
—黄泉比良坂伝承地と揖夜神社穂掛祭・一ツ石神幸祭—



【環境文化】

松久 楓さん 日本文化学科 手塚薫ゼミ

琉球列島における旧石器時代の人類活動
—研究の動向と考古学的視点からみた
今後の展望—

【歴史文化】

中嶋 奏子さん 英米文化学科 仲丸英起ゼミ

「ネイボップ」の実態と表象の比較研究



【言語文化】

木村 実結さん 英米文化学科 田中洋也ゼミ

日韓母語話者の友人同士における
不同意の言語行動の対照研究
—ポライトネスに注目して—

【英語論文】

鷺見 知也さん 英米文化学科 米坂スザンヌゼミ

An Analysis of Overlap
in the TV Comedy “Sam & Cat”

2022年度卒業研究題目一覧（一部）

◆日本文化学科

言語文化 【言語】	<ul style="list-style-type: none"> ● 多様化する名づけの中で頻出する漢字——接尾辞化に着目して—— ● 評価される広告のことば——語用論・関連性理論から見るキャッチコピーの解釈—— ● ジブリ作品『千と千尋の神隠し』キャラクターからみる役割語の役割について ● 自治体の SNS におけるやさしい日本語を用いた情報発信—— Instagram を事例として—— ● 若年層の方言コスプレの使用実態と与える影響—— SNS、対面コミュニケーションとの比較——
言語文化 【文学】	<ul style="list-style-type: none"> ● ウィスキーと風に乗って（小説） ● 教材としての文学解釈と文学研究の比較考察——芥川龍之介『羅生門』を例として—— ● 紫式部『源氏物語』論——明石の君と冬の関連性について—— ● 『鬼滅の刃』の組織および「お館様」の人物造型の特異性 ● 『刺青』にみられる「女性崇拜」「サディズム」「マゾヒズム」について
思想文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 映像作品は当事者のリアルをどう描くか—— LGBTQ への理解と偏見—— ● 世話物『首根崎心中』の影響とその後の江戸の死生観の変化について ● 中世日本の死生観から読み取れる規範意識——穢れや仏教が中世の死生観に与えた影響
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 「アイヌの英雄」北風磯吉——その振る舞いと思い—— ● 他者との境界線——日清・日露戦争における国民意識の形成—— ● 選択された「歴史」——『吾妻鏡』と『平家物語』諸本を比較して——
環境文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 食を活かした地域振興と観光の推進——旭川市を対象として—— ● 都市養蜂ミツバチプロジェクト ● 変質した祭りを継承することは伝統を護持すると言えるか——京都・祇園祭山鉾巡業を例として——

◆英米文化学科

言語文化 【言語】	<ul style="list-style-type: none"> ● 日英の比喩表現から読み取る言語文化——認知言語学を踏まえて—— ● 日本語と英語の非定表現から見る「断り」表現の特徴とその文化的背景の影響について ● 高校英語教科書とディズニー映画脚本における定型表現の比較——英語教科書で映画の理解は可能か—— ● Access to Educational Technology between Urban and Rural Areas ● First Person Pronouns in Japanese “The Wizard of Oz” ● Language Assistance for Foreign Residents in Japan in the Event of a Disaster
言語文化 【文学】	<ul style="list-style-type: none"> ● 『ハリー・ポッター』シリーズからみるイギリスの階級社会 ● カズオ・イシグロ、記憶、歴史——個人の記憶から文学の記憶へ—— ● アーサー王伝説におけるサー・ガウェインの表象——中世から現代へ—— ● 現代アメリカ映画から見る黒人差別の歴史と実情 ● 映画アベンジャーズ・シリーズからみる字幕翻訳の限界と可能性
思想文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 食文化の象徴としてのショコラ——ジャン＝ポール・エヴァンとベルナシオンを例に—— ● 近現代美学に対するバウムガルテンの思想の意識——現代を生きるための—— ● 異邦人のキリスト教——内村鑑三の戦争論と聖書解釈を中心にして——
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本における「女子力」とその独自性についての考察 ● 食と住環境から見るイギリスの貧困問題と人々への影響 ● イギリス近代競馬と日本近代競馬は似て非なるものなのか
環境文化	<ul style="list-style-type: none"> ● 都市近郊林としての藻岩山の価値と役割 ● 北海道におけるライフスタイル移住の実態と課題 ● AI とクリエイティビティ—— AI は芸術家になれるか—— ● 人工知能が及ぼし得る学校教育への影響

人文学部 TOPICS

第30回「人文学の挑戦」を開催しました

人文学部では、本学部教員の研究成果を広く地域社会に還元するトークイベント「人文学の挑戦」を紀伊國屋書店札幌本店で開催しています。2023年4月16日に開催した第30回目では、柴田崇教授が「となりのサイボーグ 身体拡張のテクノロジー？」と題して、2022年に出版した自著『サイボーグ—人工物を理解するための鍵』を元に、サイボーグ論をめぐる最新の研究成果について解説しました。来場者を交えたやり取りでは、さらにこのような視点から見たChatGPTなど生成系AIの可能性と問題についても議論しました。



人文学会第10回大会を開催しました



2023年1月21日、第10回の人文学会大会を開催しました。今回の大会は「言語と文化からウクライナを理解する」と題し、本学人文学部の寺田吉孝教授、金沢大学国際機構専門業務職員のテチャーナ・ハターエヴァ先生、ハリコフ大学元准教授のリュドミーラ・ベイ先生（寺田先生による翻訳・代読）に、政治以外の側面からウクライナとロシアの複雑な関係についてお話しいただきました。

田中綾ゼミが文芸誌を刊行しました

田中綾教授による日本文化学科2部のゼミが文芸誌『あやいと』第2号を、日本文化学科第1部のゼミが『道憬（どうけい）』第9号を刊行しました。『あやいと』第2号は文庫判427頁＋ゼミでの研究発表集A5判40ページの別冊というボリュームで、ゼミ生たちの熱意と努力が伝わる内容となりました。『道憬』第9号は、全195ページに、小説、短歌、詩などさまざまなジャンルが収まり、ゼミ生6名の個性が十二分に発揮された内容になりました。いずれの文芸誌も、札幌市中央図書館・北海道立図書館・北海道立文学館で閲覧することができます。



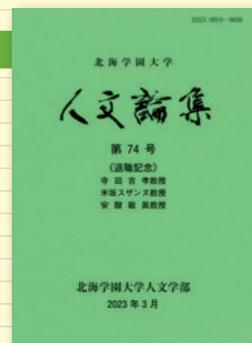
丸島ゼミ共催の美術鑑賞ワークショップ 「やさしい日本語で美術作品をみてみよう」が開催されました

やさしい日本語を用いた活動に取り組む丸島歩准教授のゼミは、2023年3月11日に市立小樽美術館との共催でワークショップ「やさしい日本語で美術作品をみてみよう」を開催しました。「やさしい日本語」は在住外国人に緊急時の情報を伝えるために考えられた、語彙や文法を易しくした文体です。ワークショップでは、同美術館で3月4日から開催されてきた特別展「美術館×やさしい日本語」において学生たちが美術作品の解説文のやさしい日本語への書き換えを行った体験を紹介しつつ、参加者の方々と共に「やさしい日本語」を用いて対話型鑑賞を実施しました。参加者の方々も学生も、「やさしい日本語」で話すことの難しさと面白さを体験する貴重な機会となりました。



研究成果を社会に

2022年12月に『年報新人文学』第19号を、2023年3月に『人文論集』第74号を発行しました。前者は、大学院文学研究科が発行する学術誌です。人文学に関する論文・書評などを広く募り、編集委員会による査読を経て掲載しています。後者は、学部教員の日頃の研究活動の内容を報告する刊行物です。1993年の学部発足以来、その理念である「新人文主義」を発信し続けています。



寺田吉孝教授・米坂スザンヌ教授・安酸敏眞教授の 退職記念最終講義が行われました

2023年3月10日と23日に、退職される寺田吉孝教授・米坂スザンヌ教授・安酸敏眞教授の退職記念最終講義が行われました。当日は、現役 of 学生や教員・職員をはじめ、かつての教え子が多数来場し、先生方の新たな門出をお祝いしました。先生方の益々のご活躍とご健勝をお祈り申し上げます。

米坂スザンヌ教授「発音教育における理論的および実践的な問題」



寺田吉孝教授「ロシアとの交流30年」



安酸敏眞教授「《新しい人文学》についての去りゆく者の提言」

就職・進学情報

[2023年3月までの集計結果]

2020～2022年度 卒業生内定先・公務員登録先 (人文学部1部および2部) ※順不同。誌面の関係上各業種一部のみ掲載しています。

業種	企業/団体名
サービス業	旭川ガス/さっぽろ水道サービス協会/JR東日本サービスクリエーション/スタジオアリス/ラウンドワン/広済堂HRソリューションズ/さっぽろ青少年女性活動協会/札幌市芸術文化財団/総合警備保障/労働者健康安全機構/日研トータルソーシング/日高信用金庫/日本郵便/北ガスフレアスト/北海道エアポート
医療・福祉業	札幌道都病院/ベネッセスタイルケア/戸田中央医科グループ/湖山医療福祉グループ株式会社健康倶楽部(北海道)/北海道勤労者医療協会/ノテ福祉会/国立病院機構北海道東北グループ/北海道厚生農業協同組合連合会
飲食業	ジュピターコーヒー/あきんどスシロー/アークアララシモン/イーストン/ケイシイシー/安楽亭/牧家/日本たばこ産業/日本レストランシステム
運輸業	ANA新千歳空港/ANA成田エアポートサービス/ヤマト運輸/札幌市交通事業振興公社/AIRDO/じょうてつ/商船三井フェリー/東札幌日通輸送/日本貨物鉄道/日本交通/日本通運/北海道通運/北海道旅客鉄道
卸売業	TOTO北海道販売/エフピコ商事/オーク設備工業/コクヨ北海道販売/スペシャライズド・ジャパン/プリチンリテールジャパン/ヨコハマタイヤジャパン/東テック北海道/日産部品北海道販売/富士ゼロックス北海道
教育・学習支援業	学校法人吉田学園/学校法人池上学園/学校法人北海道科学大学/学校法人北斗文化学園/ベネッセコーポレーション/札幌進学プラザ/進学会/国立大学法人北海道大学/市立札幌大通高等学校/苫小牧中央高等学校/北海学園札幌高等学校
金融・保険業	SOMPOひまわり生命保険/ソニー損害保険/北海道銀行(ほくほくフィナンシャルグループ)/北日本銀行/北洋銀行/北陸銀行/朝日生命保険/日本生命保険/北海道信用金庫/明治安田生命保険
建設業	ミサワホーム北海道/スウェーデンハウス/ミライエホーム/一条工務店/土屋ホーム/不二建設/豊栄建設/北海道コンクリート工業/北海道セキスイハイム/北海道不二サッシ
宿泊・旅行業	アパホテル/グランベルホテル/ザ・ウインザー・ホテルズインターナショナル/岩手ホテルアンドリゾート/札幌グランドホテル(グランピスタホテル&リゾート)/鶴雅グループ(鶴雅リゾート・鶴雅観光開発他)/野口観光
小売業	イオン北海道/マークジェイコブスジャパン/サッポロドラッグストア/セブン-イレブン・ジャパン/そごう・西武/ツルハ/ニトリ/ビックカメラ/メガネトップ/ユニクロ/ヨドバシカメラ/東急百貨店/富士薬品/生活協同組合コープさっぽろ/北海道キヨスク
情報・通信業	NTT東日本-北海道/マイナビ/リクルート北海道じゃらん/第一広告/電通デジタルアンカー/電通プロモーションプラス/中央情報サービス/北海道建設新聞社/北海道新聞社/北海道通信社/北日本広告社/札幌映像プロダクション
製造業	アイリスオーヤマ/きのとや/ロ/V/Vン/伊藤園/平塚建具製作所/北海道クボタ/柳月/第一硝子/北海道プリマム/六花亭製菓
専門・技術サービス業	mode/コアス/ゴリリス/デジタルアイデンティティ/吉岡経営センター/弁護士法人響
不動産業	AndDoホールディングス(ハウスドゥグループ)/ウィンドワード/ビッグ/ペン/栗林不動産/札幌駅総合開発/常口アトム
複合サービス業	いわみざわ農業協同組合/えんゆう農業協同組合/きたそらち農業協同組合/しれとこ斜里農業協同組合(旧:斜里町農業協同組合)/ホクレン農業協同組合連合会/札幌市農業協同組合/東旭川農業協同組合
農業	北米ファーム
その他	池坊華道会/SevenArcs

公務員名称
 せたな町役場(檜山町村会)/乙部町役場(檜山町村会)/芽室町役場(十勝町村会)/岩見沢市役所/警視庁警察官/国家公務員一般職(国土交通省)/国家公務員一般職(農林水産省)/国家公務員一般職(法務省)/国家公務員一般職(防衛省)/国税専門官/国立研究開発法人水産研究・教育機構/国立大学法人北海道教育大学/根室市役所/財務専門官/札幌市消防/札幌市役所(一般事務)/三笠市役所/枝幸町役場(宗谷町村会)/自衛隊 自衛官候補生/自衛隊一般曹候補生/自衛隊幹部候補生/上士幌町役場(十勝町村会)/森町役場(渡島町村会)/西興部町役場(オホーツク町村会)/池田町役場(十勝町村会)/長沼町役場(空知町村会)/当別町役場(石狩町村会)/苫小牧市役所/函館市役所/美瑛市役所/富良野市役所/福岡県教員/平取町役場(日高町村会)/別海町役場(根室町村会)/豊浦町役場(胆振町村会)/北海道開発局(国家公務員一般職 技術系区分)/北海道教員/北海道警察/北海道職員(その他)/北海道職員(一般行政)/北海道職員(教育行政)/北見市役所/陸上自衛隊

2020～2022年度 教員採用状況

2020年度				2021年度				2022年度			
教員	科目	合格者数 ※()内は期限付		教員	科目	合格者数 ※()内は期限付		教員	科目	合格者数 ※()内は期限付	
公立学校	国語	中学	2(4)	公立学校	国語	中学	3(2)	公立学校	国語	中学	0(2)
		高校	2(1)			高校	1(1)			高校	2(0)
	英語	中学	1(1)		英語	中学	2(1)		英語	中学	1(0)
		高校	2(3)		国語	高校	0(1)		高校	3(0)	
私立学校	国語	0(1)	私立学校	英語	1(0)	私立学校	国語	0(2)	0(2)		
	英語	2(0)		地歴	高校		0(2)				
	地歴	0(1)									

※現役卒業生のみ

2020～2022年度 進学先情報

2020年度	2021年度	2022年度
立命館大学大学院文学研究科 北海学園大学大学院文学研究科	京都大学大学院人間・環境学研究科 北海道大学大学院文学院 順天堂大学大学院医学研究科	北海学園大学大学院文学研究科 琉球大学大学院地域共創研究科

留学状況

年度	学年	1部 日本文化				1部 英米文化				2部 日本文化				2部 英米文化				カナダ	韓国	中国	ロシア	欧州	アメリカ	豪州	NZ	米国	イギリス	フィリピン	メキシコ	計(人)
		1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4	1	2	3	4													
2020				1	1				5				1				1	2	2					3	1	1		1	10	
2021									4								1	1	2					2					5	
2022		1		1	1	2	13	7	12					2	1			29	2				3	4		2			40	

※次の留学を経験した学生を算出しています。
 ・英米文化特別演習 ・国際文化特別演習 ・日本語教育特別演習 ・協定校留学(ダブル・ディグリーを含む) ・協定校ではないが、国際交流委員会経由の留学 ・休学期間中の留学 ・その他

資格取得状況

【修了者人数】

	2020年度	2021年度	2022年度
日本語教員養成課程	42	52	28
図書館学課程(司書)	27	24	25
図書館学課程(司書教諭)	4	0	4
教職課程(中学・高校国語)	17	17	※内10名は高校のみ
教職課程(中学・高校英語)	12 ※内1名は高校のみ	10 ※内1名は高校のみ	7
教職課程(高校地歴)	11	5	4
学芸員課程	16	15	14
社会教育主事課程	0	2	1

ヒューマン 2023.7 Vol.21

表紙キャッチコピー:「興味」のドアを開ける場所
 人文学部1部日本文化学科3年 的場梨々花さん
 文学や文化に関心がある人はもちろん、まだいろいろと無知であるが文系分野に漠然とした興味を持った人に対して、自分の興味の方向性を定めるのに適した場所だと思ったから。

表紙写真:1部写真部所属学生作品

文化を学ぶ 世界と繋がる



北海学園大学人文学部 日本文化学科(1部・2部)/英米文化学科(1部・2部)

